

平成28年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第1分科会

富士吉田市立 吉田西小学校

教諭 古屋 道子

『良さを活かしたつながりと交流』

～指導者の連携と園児との交流を通して～

1 はじめに

本市では、6年前に教育研修所が主催して「幼保小連絡協議会」が設立され、毎年4回程度の定例会議及び交流を行っている。幼児期から学校教育へのスムーズなつながりを目指して、市内のそれぞれの園や小学校の代表者・担当者の交流が図られていて、連携活動を進める上で有効に機能している。

本校は、吉田小学校から分離する形で昭和53年に創設された。学区は、「西原」「^{にしっばら}松山原」と言われる地であり、歴史の古い松山地区と新しく開けた上吉田（熊穴、西富士台）、新西原地区である。新しく開かれた土地に移り住んだ家庭も増えているが、本校出身であるとか、祖父母が身近に居住するといった地域とのつながりの残る生活環境も残る。

学校教育の中に目を向けると、低学年の生活科では、祖父母との交流学习も盛んで、人のかかわりが健在である。また、学校の経営方針では、『かしこく なかよく いきいきと』した子どもの育成を目指し、低学年を主流にして保育園・幼稚園との「つながりと交流」を念頭においた連携活動を行っている。

2 目的

幼児期から児童期への子どもたちの健やかな育成と連携を目指す。

3 連携活動計画

月	日	内 容
5	12	授業参観日に案内を出し、保育園や幼稚園の先生が来校して参観した。
6	15	2年生町探検（第四保育園）
6	28	1年生授業参観（食教育）参観招待
8	3	第四保育園において、1年担任による保育士体験と情報交換。（後述） 訪問や電話により数回事前打ち合わせを行った。
8	5	富士保育園において、1年担任による保育士体験と情報交換。（後述） 訪問や電話により数回事前打ち合わせを行った。
9		国語「しらせたいな みせたいな」の学習で、出身の保育園や幼稚園の先生に小学校入学後の様子や運動会についての手紙を書く。（園ごとにまとめて郵送）

10	15	土曜授業参観招待
11		ポップコーンパーティ招待 訪問や電話により数回事前打ち合わせを行った。
2	9	新入児童との交流会（保護者は入学説明会）
3		就学児童についての聞き取り

園から小学校へのなめらかな接続に向けて有効な内容としては、集団登校、給食開始前まで3校時で下校、初期段階で、掃除は5年生、給食は6年生に手伝ってもらい、給食開始後は、数日間4校時授業にして、5校時授業の日程になれるように段階的に取り入れるなど、以前より続けている取り組みがある。

4 期待される成果

《幼児》

- 児童と交流したり小学校生活にふれたりすることによって、入学時の不安や戸惑いを軽減することができる。
- 小学校への親しみや期待感を高めて小学校生活へなめらかに移行することができる。

《児童》

- 幼児とふれあうことによって、自らの成長を実感して喜ぶことができる。
- 他を思いやる心や自分の思いを表現する力など、人と関わる力を育むことができる。

《保育士・小学校教諭》

- 相互参観によって、互いの保育・教育の方法、子どもの発達や学びのとらえ方への理解を深め、指導力を向上させることができる。

5 具体的取り組み事例

保育園との連携 保育士体験について

◎目的

- ・小学校教諭が実際に保育園児とふれ合うことにより、年長児の実態を把握することができる。
- ・年長児が小学校教諭とふれ合うことにより、小学校への期待感を高める。
- ・保育の実際の様子に関して理解する。

◎日時

平成28年8月3日(水) 10:00～12:30 (第四保育園)
 平成28年8月5日(金) 10:00～12:30 (富士保育園)

◎体験参加者

1年生担任：古屋 道子 江野澤 はるか

交流の流れ

- 1 はじめの言葉・自己紹介(小学校教諭)

2 出し物

①学校紹介 1学期の1年生の様子について、学習や行事など映像を見せながら説明して紹介しました。

②大型絵本「すてきな3人ぐみ」読み聞かせ

③ゲーム1「おちた、おちた」

・「りんご」「かみなり」「げんこつ」で動きを決めておく。
鬼が「リンゴ」と言ったら決められた動きをする。鬼は段々早く言ったり、言った言葉と違う動きをしたりする。間違えたら、座る。

④ゲーム2「もうじゅうがりにいこうよ」

・「ドンドコドンドコドンドコドン」から始める。教師が動物の名前をいいその文字の数だけ人数が集まるグループ作りゲーム。グループになれなかった子は自己紹介(名前と好きなもの)をする。

⑤ゲーム3「かもつれっしや」

・曲に合わせて歌いながら歩き、「ガッシャン」でじゃんけんをする。負けた人は勝った人の後ろにつく。

⑥大型絵本「かばくん」読み聞かせ

⑦おわりのことば

3 保育参観 (集団遊び, 給食風景など)



「おちたおちた」



「♪もうじゅうがりにいこうよ」
「オ・オ・カ・ミ」「4にんだね」



じゃんけん列車



「♪もうじゅうがりにいこうよ」
「オ・オ・カ・ミ」「4にんだね」



「オオカミさん イマナンジ？」
「夜中の12時!!」「キヤー!!」



「オオカミさん イマナンジ？」
「夜中の12時!!」「キヤー!!」



かばくんで、大きいのとちっちゃいの。どっちかな



「小学校のことで、聞きたいことはありますか？」
「はい」「はい」「はい!」



給食準備



◎保育士体験の成果

- ・一昨年度までは、隔年で近隣の二つの保育園のどちらか片方を訪問していたが、昨年度と今年度は、日程の調整ができた事によって、両方の園を訪問し、交流する事ができた。まずこのことが成果としてあげられる。
- ・こちらで用意していた内容に、幼児たちはとても楽しそうに参加していた。
- ・小学校生活の紹介映像に大きな関心を持って見入り、反応している様子から学校への期待感や安心感が高まっていることが分かった。
- ・ゲームのやり方については、実態に合わせて幼児が楽しく理解できるようにその都度工夫した。年長児達は、要領が分かってとても楽しんでいた。
- ・中には行動や反応に特徴のある幼児もいたが教師や保育士の少しの援助で全員参加出来た。個々の特性を理解した上で、寛容で柔軟な対応が効果的だった。
- ・給食の様子も参観できた。準備の手順や当番の仕事が定着していて、手洗い後の行動ができていた。どの子も日頃慣れた行動で発達段階に適した活動が行われていた。
- ・集団での外遊びの様子から、遊びのルールについて理解できる場面がきちんと取り入れていることも分かった。
- ・日程や内容について打ち合わせをすることが保育士と教師の連携になり、交流活動の充実につながった。

6. まとめ

学校全体が、交流連携活動に対する考え方について理解してはいるが、低学年以外の学年が中心となる取り組みにまでにはなっていない。小学校の中では、児童会の縦割り班活動、登校班、1年生への他学年の援助など、異学年交流が行われている。人との関わりや社会性を育てる基礎として、現在の子供たちにはとても重要な仕組みや活動である。どちらの立場にあっても過剰負担とならないような内容で、継続した連携の取り組みができるとつながりが広がるのではないかと考える。

本校で、生活科の学習の一環として行っているポップコーンパーティーへの招待や入学説明会の際の年長児と1年生の交流は、年長児にとって入学時の不安や戸惑いよりも、大きな期待と安心感を育んでいると感じられる。見知った顔ぶれであったり、親切で優しい年の近いお兄さん・お姉さんと一緒に活動の中で自然と園から小学校への段差を感じない心が育っていくのではないだろうか。

今年度は保育士体験を富士保育園と第四保育園の両方で行うことができ、連携活動がより深まった。子どもばかりでなく、指導者同士も交流することで、お互いの方針や環境、実態を理解でき、子どもたちの育ちにとってよりよい要因となっている。